



(参考仮訳)

プレスリリース No. 14/127  
即時解禁  
2014年3月25日

国際通貨基金 (IMF)  
米国・ワシントン DC

## IMF クォータ及びガバナンス改革に関する クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事による声明

米国議会が 2010 年クォータ・ガバナンス改革の批准に必要な措置を可決しなかったとの知らせを受け、国際通貨基金 (IMF) のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は本日、以下の声明を発表した。

「極めて重要な改革がこれ以上遅滞することなく実現するうえで不可欠だった法的措置を、米国議会が可決しなかったという事実は極めて遺憾である。これらの改革は、加盟国のニーズに対応する IMF の能力を強化するとともに、ダイナミックな加盟国をより適切に代表したガバナンスを実現する一助となると期待されていた。

今後も、IMF のマネジメント及びスタッフと協力し改革の実現に向け取り組む加盟国を支援していく所存であり、米国当局には、この改革実現の意義を理解し最重要課題として取り組むことを期待する」

米国の批准なしには、2010 年のクォータ及びガバナンス改革は発効に至らない。

### 関連リンク：

[IMF 理事会、クォータ及びガバナンスの大規模な改革を承認](#)

[IMF のクォータ及びガバナンスに関する資料](#)

[クォータ・ファクトシート](#)

[IMF の意思決定：ファクトシート](#)